

報道機関各位

2011年11月7日
 子どもたちへ <あしたの本>プロジェクト
 <大震災>出版対策本部

11月12日(土) 13時30分
 陸前高田市に子ども図書館「にじのライブラリー」が開館！
 (取材のお願い)

来る11月12日(土)13時30分、岩手県陸前高田市の今泉天満宮境内に子どもたちのための仮設木造図書館「にじのライブラリー」(館長：荒木眞幸 同天満宮宮司)が開館します。運営は、「子どもたちへ <あしたの本>プロジェクト」と「<大震災>出版対策本部」(常任委員長：相賀昌宏 小学館社長)、地元ボランティア・グループが、三井物産株式会社より建物の寄贈を受け、地元行政や教育委員会の協力を得てこれにあたります。

陸前高田市は、東日本大地震と大津波で町全体とともに、市立図書館も建物・職員が甚大な被害を受けました。また、今泉天満宮も、社そのものが完全流失し、樹齢800年の「天神の大杉」が境内になんとか残ったのみです。波をかぶってしまった大杉は、塩害により、一時枯れかけましたが、玉川高島屋S・C(東京都世田谷区)などの屋上緑地を手掛けた株式会社イケガミなど造園専門家の真摯且つ適切な対処により、根や枝先に新たな息吹を見ることができるようになりました。この街の800年を見守り続けた「天神の大杉」に寄り添うように新たな読書環境をつくり、地元の子どもたちとともに、陸前高田の復興を見守り続けたいというものです。

この図書館は、三井物産が北海道の材木で建物と書棚を作り提供。仮設とはいえ、天井から壁、床、書棚まで部材はすべて木目を生かして、体感も見た目もたいへん温かみのあるものになりました。平屋で、敷地面積106㎡です。

また、入口に掲げる看板は、絵本作家の加古里子氏より揮毫いただいたものです。

運営は、<あしたの本>プロジェクトと<大震災>出版対策本部が、蔵書をはじめ図書館運営に必要な各種設備・備品を手配し、地元ボランティア・グループに業務を委託します。ボランティア・グループは、早期のNPO化を目指し、いっそうの公共化とより多くの人々が参加できる体制を整えます。陸前高田市並びに同教育委員会も、「各種情報の周知」「市内の他仮設図書館や学校図書館との連携促進」「ボランティア活動の側面的支援」などで「に

じのライブラリー」の運営に協力します。

＜あしたの本＞プロジェクトと＜大震災＞出版対策本部は、「図書の適宜補充」や「作家や翻訳者、編集者、大学など教育関係者など、子どもの本に携わる人々の協力による各種イベント開催」など、魅力的な施設運営に向けた企画も検討しています。

書棚は、子どもが利用しやすく高さは110cmで揃えられています。そこに、児童書を中心に約3,000冊を収蔵し、当面、市立図書館が整備されるまでの運営を予定しています。

運営にあたっては、安全面にも配慮し、図書館の建つ敷地は周辺よりも5mほど高くなっており、裏手にはさらに5mほどの高台まで避難用階段を設けます。近い将来には、裏山を12mほど登ったところに今泉天満宮が再建される計画になっており、そこへの経路が整備されれば、周辺より17mも高い避難所が確保できます。

11月12日13時30分～15時のオープニング記念プログラムは、関係者出席のもとセレモニーが行われるとともに、子ども向けプログラム、着ぐるみ撮影会、絵本などのプレゼントも企画されています。

1. 所在地 陸前高田市気仙町字中井2番地、電話：設置中のため未定
 2. 開設日・時間 土日祝：10時～16時、水曜日：13時～18時（当面の間）
 3. 運営主体 子どもたちへ＜あしたの本＞プロジェクト
 呼びかけ4団体 社団法人日本国際児童図書評議会（JBBY）
 社団法人日本ペンクラブ
 財団法人日本出版クラブ
 財団法人出版文化産業振興財団（JPIC）
 ＜大震災＞出版対策本部
 構成団体 社団法人日本雑誌協会
 社団法人日本書籍出版協会
 財団法人日本出版クラブ
 4. 建物・書棚寄贈 三井物産株式会社
 5. この件に関するお問い合わせ
 ＜あしたの本＞プロジェクト 中泉 淳（JPIC 事務局長 03-5211-7282）
 ＜大震災＞出版対策本部広報委員会 鈴木宣幸（講談社広報室長 03-5395-3410）
- 以上